

本県では、令和3年度も文部科学省の委託事業である「がん教育総合支援事業」を受託し、霧島（きりしま）市立牧之原（まきのほら）中学校をモデル校として、中学校におけるがん教育の在り方について研究を深めました。研究の取組等については以下のとおりです。

- 1 モデル校 霧島市立牧之原中学校
- 2 研究の取組内容（令和3年度）

### 生命について考える週間（令和3年11月4日～11月15日）



牧之原中学校区では、がん教育の推進にあたって、「生命について考える週間」を設定し、がん教育と関連付けながらSOSの出し方に関する学習や血液講話等の学習を通して、かけがえのない命を尊重する生徒の育成に取り組みました。

### がん教育モデル校授業研修会（令和3年11月8日）

講師（NPO法人がんサポートかごしま：三好 綾 氏）



#### <主な内容>

事前授業の中で、がんという病気について学習し、三好氏に生徒からの質問等に答えていただきながら授業を進めました。

三好氏から自身の経験やがんになりやすい世代、旅立った患者さんなどについてお話を聞き、これからの生き方について考えを深める授業を行いました。




## 「生命について考える週間」の取組について

霧島市立牧之原中学校 校長 岩下 修一

### 1 「生命について考える週間」の設定とその趣旨

- (1) 期日 令和3年11月8日～15日
- (2) 趣旨 病気に関する正しい知識を身に付け、健康への関心を高めるとともに、ストレスをためない人間関係やs o s の出し方を学ばせ、かけがえのない生命を尊重する態度の育成を図る。

### 2 「生命について考える週間」の取組等

取組・期日等	授業者・対象者等	写真等
(1) がん教育総合支援事業における公開授業 令和3年11月8日(金) 14:45～15:35 (6校時)	1年1組対象 指導者 上口 弥生 教諭 屋田 愛 養護教諭 三好 綾 ゲストティーチャー ※NPO 法人がんサポートかごしま理事長(オンラインで指導)	
(2) 全校朝会 令和3年11月9日(火) 8:20～8:40 (朝活動)	全校生徒 指導者 岩下 修一 校長 ※今年度「少年の主張鹿児島県大会」最優秀賞となった霧島市立横川中学校宮脇大果さん「今を生きる」の発表動画を視聴した。	
(3) s o s の出し方に関する学習(自殺予防教育) 令和3年11月13日(土)	全校生徒 講師 高橋聡美 中央大学客員研究員 ※アサーション・トレーニングやアンガーマネジメントについて、演習を通して学習した。	
(4) 「生命」に関する図書コーナーの設置、設営	①司書による「生命」に関する図書紹介(右写真) ②養護教諭による掲示 生徒会保健体育部が、全生徒に「自分が健康に過ごすためにできること」をカードに記述させ、応用紙に貼付し、掲示・設営した。	
(5) 血液講話 令和3年11月15日(月)	3年1組対象 講師 山形 恵美 学校薬剤師 ※ 血液のしくみや役割、血液に関する病気について正しい知識を身に付け健康管理について意識向上を図る。	

### 3 成果と課題

- (1) 年間を見通して、この時期に、生命尊重をテーマに「がん」「病気」「人間関係」等の視点から「生きること」に集中して学習させることで、健康管理に注意を払ったり、友人関係の悩みについて改善のヒントをつかんだり、所期の目標である生命を尊重する態度の育成を図ることができた。
- (2) これまで自己肯定感の特に低い生徒が見受けられたが、取組後は比較的安定している。
- (3) 「生命について考える週間」の取組で学んだことを、今後、生徒が学校生活に活かせるよう追指導を行っていく必要がある(深化:保健体育・道徳, 実践:総合的な学習時間・学校行事等の体験活動)。
- (4) 事前に保護者や市内の学校に授業参観等呼びかけ、約30名の来校があった。感想等には、講師の思いが込められた学習内容や生徒のいきいきとした様子について綴られていた。こうした取組を外部に発信できたことはよかった。今後、学校教育の柱に据えて、学校経営の充実につなげたい。

# 第1学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月8日(月) 6校時  
 場 所 霧島市立牧之原中学校 1年1組教室  
 対 象 1年1組(男子17名 女子10名 計27名)  
 指導者 T1 上口弥生(学級担任)  
 T2 屋田 愛(養護教諭)  
 T3 三好 綾  
 (NPO法人がんサポートかごしま)

## 1 主題名

「生命の尊さ」(内容項目D-19)

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

## 2 本時のねらい

- (1) がん患者さんの体験を聞いて、がんについて正しい知識を身に付けるとともに、健康への関心を高める。
- (2) かけがえのない生命を尊重する態度を育て、自他共に力を携えながら生きていこうとする意欲を高める。

## 3 指導過程 (T1:授業の進行, 生徒の個別指導等, T2:外部講師との連携, 養護教諭としての指導等)

過程	学 習 活 動	主な発問と外部講師の支援	T1・T2の動き等
導 入 (5分)	1 学習課題を確認する。 「がん」とは、どのような病気なのだろうか。 2 外部講師の思いを聴く。 3 命について、これまでの自分の考えを振り返る。	T3 自己紹介を行い本時について話し見通しを持たせる。 T3 質問「今までに死んでしまいたいと思ったことがあるか」	T1 本時の学習について説明する。 T2 課題を提示する。 T2 本時は T3 外部講師とリモートで授業を進めることを話し、T3を紹介する。
展 開 (5分)	4 がんの種類について話を聴く。 〇〇さんのがんは何か考える。	T3 がんの種類について説明し、質問する。 「〇〇さんは何のがんでしようか。」	T1 生徒の様子を見守る。 T2 (必要に応じて)がんについて部位とがんの種類を黒板に提示する。
(5分)	5 がんになりやすい世代について話を聴く。	T3 がんになりやすい世代について質問する。 「〇〇さんは何歳でしょう」「何歳で罹患したでしょう。」	T2 リモートの状況を踏まえ音声が届き取りにくかったり、生徒が反応しづらかったりしたときは補足する。
(8分)	6 がん患者さんの体験を聴く。 ・治療のこと ・告知されたときのこと ・支えてくれたこと。	T3 質問に答えて体験を話す。	
(13分)	7 旅立った患者さんについて話を聴く。 ・T3の話を聴き、自分のことを見つめ直す。	T3 「かみづるさんのいのちの授業」について説明し、生徒に問いかける。	
(9分)	8 これからの生き方について話を聴き、考えを深める。 二人に一人ががんにかかることを踏まえ、これからの生き方について考えを深めてみよう。	T3 これからの生き方に関して三つの約束について話す。	T2 T3 がこれからの生き方についてより深く考えるよう課題を提示する。
終 末 (5分)	9 本時を振り返り、生命を大切に生きていくために、これから意識していくことを考える。 10 学習したこと振り返り、自分なりの考えをまとめ、発表する。 11 まとめを通して、将来への意欲を高める。	T3 共に生きることの大切さに触れ、感想を発表させる。	T2T1 本時のまとめとする。

## 4 評価

- (1) がん患者さんの体験を聞いて、がんについて正しい知識を身に付けるとともに、健康への関心を高めることができたか。
- (2) かけがえのない生命を尊重する態度を育て、自他共に力を携えながら生きていこうとする意欲を高めることができたか。